

『真光寺川 里親の会』通信

5月号 一通算第98号

2009年5月10日

真光寺川周辺の春の花々



私

達の清掃活動が休止する冬の間も、植物たちは春への準備を着実に進めている。年明け早々には、下堰橋右岸の蟬梅が花を開き、立春を過ぎるや、川原に根を下ろした白梅や藤池(通称五条池)の紅梅が花をつけ始め、能ヶ谷橋右岸のコブシもあつという間に満開になる。気の早いオオイヌフグリが、神明橋左岸の土手に眼に染みるような空色の絨毯を駆け、タンポポも側道や川原でちらほら黄色い花を耀かせ、コスミレの可憐な紫色が彼方此方でウイंकを交わす。3月に入るとノゲシやタビラコの黄色、キランソウやショカツサイの紫、ナズナやタネツケバナの白、ヒメオドリコソウやホトケノザの赤と、色とりどりの草花達が競って花開き、我が真光寺川周辺は百花繚乱の4月を迎える。

春たけなわの流域を彩る草花達は、百花とまでは行かないものの60余種に上る。この殆どが、関東・都市周辺ではごくありふれた種類である。花色別に名称と分類を紹介してみよう。

花の色	(分類) 名称	下線は外来種
黄色系	(キク科) <u>セイヨウタンポポ</u> 、 <u>オニノゲシ</u> 、ノゲシ、オニタビラコ、タビラコ、ジシバリ、ニガナ、ハハコグサ (キンポウゲ科) キツネノボタン (ケシ科) <u>クサノオウ</u> (バラ科) ヘビイチゴ、キジムシロ (アブラナ科) イヌガラシ、スカシタゴボウ、ナノハナ類 (サトイモ科) セキショウ (カタバミ科) カタバミ	
青色系	(スミレ科) コスミレ、スミレ、タチツボスミレ、 <u>アメリカスミレサイシン</u> (ケシ科) <u>ムラサキケマン</u> (ゴマノハグサ科) <u>オオイヌフグリ</u> 、 <u>タチイヌフグリ</u> 、 <u>ムラサキサギゴケ</u> 、 <u>トキワハゼ</u> 、 <u>マツバウンラン</u> (シソ科) <u>キランソウ</u> 、 <u>カキドウシ</u> (キンポウゲ科) <u>セリバヒエンソウ</u> (アブラナ科) <u>ショカツサイ</u> (ムラサキ科) <u>キュウリグサ</u> (キク科) <u>キツネアザミ</u> (フウロソウ科) <u>アメリカフウロ</u>	
赤色系	(ケシ科) <u>ナガミヒナゲシ</u> (マメ科) <u>ゲンゲ</u> 、 <u>カラスノエンドウ</u> 、 <u>ムラサキツメクサ</u> (タデ科) <u>スイバ</u> (アカバナ科) <u>ユウゲショウ</u> (カタバミ科) <u>ムラサキカタバミ</u> (シソ科) <u>ホトケノザ</u> 、 <u>ヒメオドリコソウ</u>	
白色系	(アブラナ科) <u>ナズナ</u> 、 <u>タネツケバナ</u> (バラ科) <u>クサイチゴ</u> (マメ科) <u>シロツメクサ</u> (キンポウゲ科) <u>ニリンソウ</u> (キク科) <u>フキ</u> 、 <u>ハルジオン</u> 、 <u>タチチチゴサ</u> (スミレ科) <u>ツボスミレ</u> (ナデシコ科) <u>ハコベ</u> 、 <u>ウシハコベ</u> 、 <u>ツメクサ</u> 、 <u>ノミノツツリ</u> 、 <u>ノミノフスマ</u> 、 <u>オランダミミナグサ</u>	
その他	(イネ科) <u>コバノソウ</u> 、 <u>スズメノテッポウ</u> 、 <u>スズメノカタビラ</u> 、 <u>チガヤ</u> 、 <u>カズノコグサ</u> (イグサ科) <u>スズメノヤリ</u> (トクサ科) <u>ツクシ</u> = <u>スギナ</u> の胞子茎	

こ

これらの花々は川原や側道に散在しており、狭い範囲で観察したければ、神明橋下流の田畑地帯か広袴公園が薦めである。ここ数年で姿を消した種類もあれば、セリバヒエンソウのような新顔やマツバウンランのように急に増えてきた花もある。オランダミミナグサ、



可憐な新顔セリバヒエンソウ

ナガミヒナゲシ、キュウリグサの3種が目立って多く、特にオランダミミナグサの花殻は、萌え立つ緑の上に藁屑を撒き散らしたようになり、見苦しく感じる。また、外来種(名称に下線)が花々の賑わいの主役になってきており、春の七草として古来親しまれてきたハコベやタビラコ(古名ホトケノザ)も、今では見つけるのが難しくなった。



下堰に咲くマツバウンラン

草花だけでなく木々も若芽を吹き花をつける。川原のカワヤナギが綿毛を風に散らせ、クワも雄蕊を伸ばす。能ヶ谷会館対岸の川原にいつの間にか根付いた3本のホウキモモ(花桃の1種)が、美しい花を纏い、側道に植栽されたユキヤナギも純白のベールを被る。

そして山笑うこの季節、何にもまして春の悦びを与えてくれるのは、上流の田畑とそこを抱きかかえるように守っている雑木林である。クヌギやコナラ、イヌシデが花穂を垂れ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、エゴが咲き継ぎ、ホウの花が匂いたち、ニリンソウが林床を白く染め上げて、懐かしい多摩丘陵の春の美しさを私達に伝えてくれるのだ。

ここを何とか次世代に残していけないものかと切に願うものである。（報告者 山岡 鐵也）

真光寺川に500メートルごとに距離標識が設置されました。

すでに真光寺川の周辺を散歩されている方はお気づきのことと思いますが、このたび鶴見川との合流地点から500mの矢崎橋付近、1kmの権現橋付近、1.5kmのしただ橋付近の3ヶ所に素敵な距離標識が設置されました。これはこの地区を管理している東京都の南多摩東部建設事務所が設置したもので、鶴見川水系のマスコットのバクのマークが描かれています。真光寺川を清流にする会は昨年5月文書で距離標識の設置を要望していましたが、ようやく実現しました。真光寺川の両側の歩道は散歩する人やジョギングする人など年々増加しているように思われます。この距離表示の設置によってさらに親しまれる散歩道になるものと思います。



しただ橋付近の距離標識

『めだかポスト』

郵便振替で能ヶ谷町の淀久子様・石橋栄作様と真光寺3丁目の福本輝子様から、その他めだかポストや一木会からの寄付などを合算して、4月は合計23,285円でした。有難うございます。

ご厚志を頂くに当って、ご負担をかけない様に「**印字済払込取扱票**」をポスト脇のファイルに入れてあります。「**赤インク印字の払込取扱票**」をご利用頂ければ、**手数料無料**でお振込みが出来ます。また**なるべくATMでの振込み**をご利用ください。どうかよろしくお願いいたします。

郵便振替 『00150-4-574114』
加入者名 『真光寺川里親の会』

今回もお便りを戴きました

※過日鵜が真光寺川に潜っている端で一羽のコサギが鵜の泳ぐ方向について歩き回り忙しそうに右往左往？すると鵜が潜った場所の小魚が驚いて川底から浮き上がった処でコサギがパクリ！何と3匹も取る事が出来たのです。頭の良いラッキーなコサギちゃんなのでした。この事を目撃できた私達夫婦もラッキー！ラッキー！……淀久子様（郵便振替で）※いつもありがとうございます……石橋英作様（郵便振替で）

私たちの行動基準

1. 私たちの活動は、地元や地域の人たちに支持されているか。
2. 私たちの活動は、自然に対して謙虚であるか。
3. 私たちの活動は、誰にも解るように説明されているか。

6の清掃日は14日（第2日曜日）です、一緒に川をきれいにしませんか・・・

☆ スケジュール 9:30 下堰親水場 集合

09:30 開戸親水場～神明橋間の清掃

11:30 打ち合わせ（「いちよう会館」）

12:30 解散予定

『<http://www.shinkojigawa.com/>』 ホームページへご意見感想をお寄せ下さい

『真光寺川 里親の会』会長：山口 拓郎 町田市鶴川1-10-13 TEL/Fax 042-735-0382

事務局：町田市広袴3-24-11 山本隆治 TEL/Fax 042-736-0214 e-mail ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp